

# 愛媛県における Iターン就農の実態と支援策

食料生産学科 食料生産経営学コース  
農業経営学研究室  
武田美咲希

# 目次

- はじめに
- 先行研究の整理
- 調査方法
- 調査結果
- 支援策の提案
- 課題と今後の研究

# はじめに（研究の背景と目的）

## 課題

### ◎農業の担い手不足と高齢化

- ・ 愛媛県の人口流出（若者の県外流出）



Iターン就農で担い手を確保

## Iターン就農の定義

「愛媛県外出身者が愛媛県で新規参入として就農した者」

## 先行研究（就農の阻害要因）

江川（2012）と多保（2024）によると、  
就農の阻害要因は8つの項目に分けられる

- ①就農希望者の募集
- ②栽培技術の習得
- ③農地・機械の確保
- ④住宅の確保
- ⑤ 資金の確保
- ⑥労働力の確保
- ⑦収入の安定化
- ⑧地域との関わり

## 調査方法

Z農協管内での新規就農の実態を調査



Y市とX町の柑橘農家3名に聞き取り調査を実施

～Z農協の選定理由～

- ・愛媛でも有数の柑橘産地だから

## 調査結果（対象者の概要）

|       | A氏（女性）                 | B氏（女性）  | C氏（男性） |
|-------|------------------------|---------|--------|
| 出身    | M県                     | T都      | H県     |
| 現居住地  | X町                     | Y市      | X町     |
| 居住開始年 | 2018年                  | 2020年   | 2020年  |
| 年齢    | 30歳代                   | 40歳代    | 30歳代   |
| 家族    | 夫                      | 夫・子ども2人 | 独身     |
| 就農歴   | 7年目                    | 3年目     | 5年目    |
| 栽培面積  | 3.5ha                  | 1.8ha   | 1.9ha  |
| 栽培品目  | <b>※個人情報のため一部加工・削除</b> |         |        |

資料：聞き取り調査より筆者作成。

## 調査結果（就農動機）

### A氏（女性・M県出身）

- ・結婚直後に夫から「農家になりたい」と言われる
- ・A氏の夫「起業をして経営者になりたい」→農家になる

### B氏（女性・T都出身）

- ・都会での生活に疲れ、田舎でのんびり子育てがしたい
- ・愛媛で何の仕事をしよう→愛媛＝みかん

### C氏（男性・H県出身）

- ・一軒家に住みたい→母の実家がある愛媛へ
- ・Z農協選果場で働く→農作業が性に合う、農家との繋がり、Y町の地域性に惹かれる

## 調査結果（就農阻害要因①②）

### ① 就農希望者の募集

|    |  |
|----|--|
| A氏 | ふるさと回帰センターで移住先の情報を得て、Z農協で就農までの段階を教えてください。A氏はZ農協管内で地域おこし協力隊として活動し、A氏の夫がJAの研修を受ける。 |
| B氏 | 市の移住者体験を通して市にJAを紹介してもらう。   |
| C氏 | 農作業員として働くことで知り合った農家にJAの研修制度を教えてください。   |

### ② 栽培技術の習得

|    |  |
|----|--|
| A氏 | Z農協での研修（1年間）と近隣農家の指導により習得した。                   |
| B氏 | A氏と同様。研修期間は2年間。                                |
| C氏 | 就農して自分の園地の特性を把握していくなかで、近隣農家の指導を受けながら栽培技術を習得した。 |

資料：聞き取り調査より筆者作成。

## 調査結果（就農阻害要因③④）

### ③農地・機械の確保

|    |                                     |
|----|-------------------------------------|
| A氏 | 園地は地域の組織に斡旋してもらおう。機械は町やJAがリースしてくれる。 |
| B氏 | 園地と倉庫はJAのマッチングにより確保。選果機は補助金を活用。     |
| C氏 | 知り合いの農家から格安で購入したり、譲り受けたりすることで確保。    |

### ④住宅の確保

|    |                                    |
|----|------------------------------------|
| A氏 | 家の持ち主から直接話があり、購入。                  |
| B氏 | 夫の叔母が所有するアパートを借りて改装し、住んでいる。        |
| C氏 | 移住当初は祖母の家に住む。現在住んでいる家はA氏と同様の流れで購入。 |

資料：聞き取り調査より筆者作成。

## 調査結果（就農阻害要因⑤⑥）

### ⑤資金の確保

|    |  |
|----|--|
| A氏 | 就農計画書を提出し、Z農協と公庫から補助金を受ける。                                       |
| B氏 | 移住者のための補助金と就農のための補助金を活用しても収入が足りず、貯金を切り崩しながら生活している。柑橘に特化した補助金を望む。 |
| C氏 | 国の補助金やJA・市町の補助金を活用している。JAから低い金利でお金を借りている。                        |

### ⑥労働力の確保

|    |   |
|----|---|
| A氏 | 基本は夫婦2人で経営。収穫など繁忙期はアルバイトを雇う。  |
| B氏 | A氏と同様。  |
| C氏 | 基本は1人もしくはパートナーと2人で経営。繁忙期は周囲の農家や母に手伝ってもらったり、アルバイトを雇ったりすることで労働力を確保している。 |

資料：聞き取り調査より筆者作成。

## 調査結果（就農阻害要因⑦⑧）

### ⑦収入の安定化

|    |  |
|----|--|
| A氏 | 果樹は基本的に収入が安定しない。改植期間中ということもあり、不安定。   |
| B氏 | 収量を増やして収入の安定化を図る。販売方法を工夫する。できる限り経費を抑えて出費を減らす。限られた労働力の中でいかに効率よく収量を増やせるかが課題。 |
| C氏 | 収入は常に不安定である。収入保険に加入し、収入を保障している。  |

### ⑧地域との関わり

|    |  |
|----|--|
| A氏 | 婦人会に参加し、仲の良い関係性を築いている。町全体としても移住者の受け入れを歓迎しているため、地域に馴染むことは苦労しなかった。               |
| B氏 | 保育所でママ友と仲良くなり、同じ世代で交友関係が広がった。また、農家女性部の役員として活動したり、移住者交流会に参加したり、地域との関わりを大切にしている。 |
| C氏 | 消防団に入ったり、地域のイベントに参加したり、積極的に地域のコミュニティに参加している。                                   |

資料：聞き取り調査より筆者作成。

# 支援策の提案

## ①就農希望者の募集について

→就農に興味を持った者が情報収集しやすい環境を作る必要性

- ・市町職員等が仲介者となり、就農希望者へ移住先や研修先を斡旋する

## ②栽培技術の習得

→JA研修の受け入れを拡大

- ・人気の地域では希望の研修を受けることができない課題
- ・近隣農家に指導してもらいやすい環境づくり

## ③農地・機械の確保

→農地管理の徹底と園地として貸し出す仕組みの確立

- ・市町は、農地の管理を徹底し、機械購入のための補助金等の支援を充実させる
- ・②と同様、近隣農家との良好な関係を築いておく必要性

# 支援策の提案

## ④住宅の確保

→空き家バンクの促進

- ・空き家の整備を進める、空き家バンクに登録してもらえるような取り組み

## ⑤資金の確保

→柑橘に特化した補助金制度の充実

- ・機械購入の資金が必要

## ⑥労働力の確保

→農作業アルバイトの周知

- ・学生にとってはガクチカにも繋がる

# 支援策の提案

## ⑦収入の安定化

→農地集積、園地の幹旋や販路拡大に繋がるような支援

- ・ JA以外の出荷先の提案

## ⑧地域との関わり

→移住者と受け入れ側の双方が歩み寄る姿勢

- ・ 移住者は地域のコミュニティへ積極的に参加し、  
受け入れ側は移住者のことを気にかける、親睦会を開催など

## 課題と今後の展望

- ・ 愛媛県は担い手確保のために様々な事業に取り組む  
→ 就農相談会に参加して就農を決意した農家への聞き取り
- ・ 移住先の受け入れる側の話を聞く  
→ 移住者と受け入れ側双方の理解に繋がる
- ・ 定住しなかった場合の阻害要因の分析
- ・ Iターン就農は担い手確保・就農方法の一つ  
→ ◎地元出身者や身内で後継者を見つけることが最善

# 参考文献

- ・ 江川章（2012），多様化する新規就農者の動向と就農支援の取組体制
- ・ 愛媛県（2025a），愛媛県推計人口（令和7年12月1日現在）  
<<https://www.pref.ehime.jp/page/3340.html>>，2026年1月15日参照
- ・ 愛媛県（2025b），かんきつ類の統計  
<<https://www.pref.ehime.jp/page/11418.html>>，2026年1月15日参照
- ・ 全農えひめ（2025），データで見る愛媛の農業  
<<https://www.zenoh.or.jp/eh/agriculture/data/pdf/kiso2025.pdf>>，2026年1月15日参照
- ・ 総務省統計局（2024），人口推計（2024年10月1日現在）  
<<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2024np/index.html>>，2026年1月15日参照
- ・ 多保奈緒子（2024），1ターン就農者の定住阻害要因の解決方法と支援方策
- ・ 農林水産省（2023），令和4年新規就農者数調査結果  
<[https://www.maff.go.jp/j/tokei/kekka\\_gaiyou/sinki/r4/index.html](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kekka_gaiyou/sinki/r4/index.html)>
- ・ 農林水産省（2025a），統計情報・愛媛県詳細データ  
<<https://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/38/details.html>>，2026年1月15日参照
- ・ 農林水産省（2025b），新規就農の促進  
<[https://www.maff.go.jp/j/new\\_farmer/index.html](https://www.maff.go.jp/j/new_farmer/index.html)>，2026年1月15日参照
- ・ Tokyo FM 「あぐりずむ未来へつなぐあぐりパワー」  
<<https://www.tfm.co.jp/agripower/report/onair/54366>>，2026年1月15日参照

## 謝辞

卒業論文の作成にあたり、多くの方々にご支援をいただきました。

お忙しいところ聞き取り調査に快く応じてくださったAさん、Bさん、Cさんのおかげで本研究に取り組むことができました。

本当にありがとうございました。

また、農業経営学研究室の山本和博教授、鈴木淳助教、同研究室の皆様には多くの助言とご指導をしていただきました。皆様のおかげで本論文を完成させることができました。ありがとうございました。

改めまして、本論文の作成に関わってくださった全ての方々に深く御礼申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。